

33 『トンガリぼうしの魔法つかい③／忍者やしきのひみつ』 成井豊

○ ジャンル／SF

○ ストリー／ケーキ屋のプリンさんは、実は魔法つかい。ある日、近所の時計屋のチツクさんが、「あやつり時計」を発明した。「あやつり時計」は人間の時間を速くしたり遅くしたり出来る。小学生のマサルは足が遅いのが悩みのタネ。チツクさんに「あやつり時計」をくださいと言うが、断られてしまう。その夜、マサルの部屋に忍者の猿跳ゴンスケが現れる。ゴンスケは「あやつり時計」を探していると言う……。

○ 出演者／男9＋女6＋2 計 15＋α

○ 上演時間／90分

登場人物 ケーキ屋プリンさん

猿飛ゴンスケ

イチスケ（猿飛コザル軍団）

ニスケ（猿飛コザル軍団）

サンスケ（猿飛コザル軍団）

ヨンスケ（猿飛コザル軍団）

マサル（小学5年）

ミチコ（小学6年）

パパ／服部ヤルゾウ

ママ／くノ一カゲロウ

時計屋チツクさん

ヨシヒロ（マサルの友だち）

エツコ（マサルの友だち）
イズミ（マサルの友だち）
鳩時計のポッポ
時計たち／木と風たち／月の光たち／ランナーたち

遠くから、教会の鐘の音が聞こえてくる。あたりは次第に暗くなっていき、やがて夜の闇に閉ざされる。月が昇る。ヨーグルト・キャンディーのように、白くて大きな満月。その光に照らされて、五つの白い影が現れる。白いマントに白いトンガリぼうし。トンガリぼうしの魔法つかいたちである。

――――M1「トンガリぼうしの魔法つかい」

魔法つかいたち

白い月が昇ったら

窓を開けて 夜空を見上げて

ほら トンガリぼうしが通り過ぎる

悲しい寝顔の女の子には

そっと笑顔の魔法をかける

私は月の魔法つかい

トンガリぼうしの魔法つかい

魔法つかいの一人が、トンガリぼうしをとって、お辞儀をする。この物語の主人公、プリンさんである。

プリンさん

みなさん、こんにちは。私はトンガリぼうしの魔法つかい。子供たちに

魔法つかいたち

は、プリンさんと呼ばれてます。みなさんはプリンが好きですか？私
は大好き。もちろん食べるのも好きだけど、自分で作って、誰かに食べ
てもらう方がもっと好き。だから私は、昼間はケーキ屋さんをやっ
てるんです。でも、夜になって月が昇ると、このぼうしをかぶって、空へ
飛び立ちます。困っている人を助けるために。私の魔法で、一人でも多
くの人が幸せになってくれたら、私は幸せ。月は、真っ暗な夜を少しで
も明るくしようと、地上に光を注いでいます。私も月のように、困っ
ている人を明るくしたいんです。

青い屋根を飛び越えて
忘れた夢 届けに行こう

さあ トンガリぼうしが舞い降りる

ひとりぼっちの男の子には

楽しいお話 聞かせてあげる

私は月の魔法つかい

トンガリぼうしの魔法つかい

プリンさん

さてさて。今日はみなさんに、私の街で起きた不思議な出来事をお話
しましょう。お話の題名は、『忍者やしきのひみつ』。みなさんは、忍
者に会ったことがありますか？ テレビや絵本に出てくる忍者じゃなく
て、本物の忍者よ。実は、私の街に本物の忍者が現れたんです。それも
一人や二人じゃなくて、たくさんのお話が始める前に、みな
さんに紹介しておきたい人がいます。その人の名前は、時計屋チツク

さん。

魔法つかいたちが去る。

——— M 2 「バレリーナ時計」（演奏のみ）

長い針と短い針がやってくる。中央に立つ。1から12までの数字がやってくる。針を囲むように立つ。すると、時計の文字盤ができあがる。バレリーナによって作られた「バレリーナ時計」である。「バレリーナ時計」がゆっくりと動き出す。そこへ、時計屋チツクさんがやってくる。手には大きな銀色の時計を持っていく。チツクさんが大きな銀色の時計の針をグルグル回す。「バレリーナ時計」もグルグル回る。チツクさんが大きな銀色の時計の針を止める。「バレリーナ時計」も止まる。チツクさんが大きな銀色の時計の針をグルグル回しながら、去る。「バレリーナ時計」もグルグル回りながら、去る。

反対側から、小学生たちがやってくる。

小学生たち　チツクさん、こんにちは。

すぐにチツクさんがやってくる。

チツクさん　やあやあ、みんな、こんにちは。今日はなんの用事だい？
 ヨシヒロ　これ、ニシカワ先生のストップウォッチなんですけど。（と差し出す）
 チツクさん　あっ！（と受け取る）あの先生、また壊しちやったのか？　どうせまた

エツコ
チツクさん

バスケットと間違えて、食べようとしたんだろう。
そうです。よくわかりましたね。
見ればわかるよ。ここに歯形がついてるじゃないか。(時計に) かわいい
そうに。痛かったかい？

ヨシヒロ
チツクさん

時計に向かつて話しかけてる。
僕は時計屋だ。時計屋には時計の気持ちかわかるんだ。(時計に) もう
大丈夫だよ。僕がおしてあげるからね。

エツコ

すぐになおりそうですか？

チツクさん

いや、こいつはかなりの重傷だ。全治一週間てところかな。

ヨシヒロ

チツクさん

一週間もかかったら、困るんですよ。

エツコ

どうして？
明日はマラソン大会なんです。ストップウォッチがないと、記録が計れ

チツクさん

ないんです。

イズミ

そういうことなら、今晩中になんとかしよう。こいつだって、マラソン
大会には出たいはずだ。(時計に) 出たいだろう？ そうか、出たいの

チツクさん

か。よしよし。
本当に大丈夫かな。

イズミ

心配するな、イズミちゃん。僕は世界一の時計屋なんだ。

そこへ、プリンさんがやってくる。

プリンさん

こんにちは、チツクさん。

チツクさん

やあやあ、プリンさん、こんにちは。今日はなんの用事ですか？

プリンさん
チックさん
プリンさん
チックさん
プリンさん
チックさん
プリンさん
チックさん
プリンさん
マサル
チックさん

先週お願いした、目覚まし時計なんですけど。
あーあー。プリンさんが、寝ぼけて叩いて壊しちゃったヤツですね？
大きな声で言わないで！
時計をいじめた罰ですよ。今度からは、もっと優しくしてやってくださいね。
それじゃ、ちゃんと動くようになったの？
もちろんですよ。えーと、どこに置いたかな。何しろウチの店には、時計が百万個もあるんでね。
私も一緒に探しましょうか？
僕たちも手伝いますよ。
ありがとうございます。くれぐれも、落としたりしないようにね。時計には口がない。痛くても、「痛い」って言えないんだ。

小学生たちが奥へ入っていく。

———
M3 「チクタク・ワルツ」

チ・プ・小学生

チクタクタク チクタクタク
チクタクタク リーン

チックさん

夜が来て僕が寝て 夢を見ている時も
止まらない働き者 えらいぞ時計
朝が来てベル鳴って ベル止めてまた寝ても

止まらない働き者 えらいぞ時計
気づいた時には 八時すぎ
おかげで今日も 遅刻した

1 コーラス目の間に、小学生たちがいろんな時計を持ってくる。一つ一つをチツクさんに見せる。が、チツクさんは首を横に振る。

チ・プ・小学生

チクタクタク チクタクタク
チクタクタク キンコーン

プリンさん

体育の時間に サッカーをする時は
スイスイ動いちゃう ずるいぞ時計は
イタズラして廊下に 立たされた時は
ジリジリ動かない ずるいぞ時計
楽しい時だけ 速く動く
苦しい時も 速く動いてよ！

2 コーラス目の間に、ヨシヒロやエツコたちが大きな鳩時計を持ってくる。チツクさんに見せる。が、チツクさんは首を横に振る。2 コーラス目の後で、マサルが大きな銀色の時計を持ってくる。チツクさんに見せる。と、チツクさんはマサルの手からその時計を奪い取る。

チツクさん

マサル

チツクさん

マサル

チツクさん

マサル

チツクさん

マサル

チツクさん

プリンさん

チツクさん

プリンさん

チツクさん

プリンさん

プリンさん

この時計に触っちゃダメだ！

どうしてですか？

この時計はただの時計じゃないんだ。下手に動かすと、とんでもないこ

とになる。

とんでもないことって？

この時計は「あやつり時計」と言っていて、周りにいる人の時間をあやつる

ことができるんだ。

まさか。

おや？信じられないって言うんだな？それなら、証拠を見せてやろ

う。プリンさん、あなたは意外と力が強いんですね。

そんなことないわよ。

いや、僕なんかよりずっと強い。だって、目覚まし時計を叩いて壊しち

やったじゃないですか。ケーキ屋さんより、プロレスラーの方が向いて

ますよ。

なんですって——

プリンさんがチツクさんに駆け寄る。チツクさんが「あやつり時計」をプリンさんに向
けて、針を止める。すると、プリンさんが止まる。

マサル
チックさん
マサル
チックさん

あつ！プリンさんが止まった！
「あやつり時計」の針を止めたから、プリンさんの時間も止まったんだ。
このまま一生動けないんですか？
そんなことはない。針を放せば、すぐに動き出す。

チックさんが「あやつり時計」をプリンさんに向けたまま、プリンさんの後ろへ行く。
そして、針を放す。すると、プリンさんが動き出す。

プリンさん
チックさん
プリンさん
チックさん

プロレスラーなんて、あんまりじゃない！ あれ？
プリンさん、こっちこっち。
いつの間に。
この時計で、あなたの時間を止めたんです。イタズラをして、すいませ
んでした。

マサル
チックさん

すごい時計ですね。
すごいのはこれだけじゃない。針を速く回せば、時間を速くすることだ
つてできるんだ。たとえば――

プリンさん
チックさん
プリンさん
チックさん

今度は私にやらせて。(と「あやつり時計」を取る)
まさか、私の時間を速くするつもりじゃないでしょうね？
そのつもりよ。
さっきの仕返しですか？ すいませんで謝ったのに――

チックさんがプリンさんに駆け寄る。プリンさんが「あやつり時計」をチックさんに向
けて、針をグルグル回す。すると、チックさんがすごい勢いで動き出し、プリンさんに

早口で文句を言う。プリンさんが針を放す。すると、チツクさんが止まる。

チツクさん

なんか、すごく疲れちゃった。

マサル

すごい。本当にすごい時計ですね。

チツクさん

僕が発明したんだ。世界にたった一つしかないんだぞ。

マサル

僕に貸してください。

チツクさん

それはダメだ。それは貸してダメだ。明日のマラソン大会で使いたいです。

マサル

まさか、この時計を持って走るつもりか？

チツクさん

そうです。この時計で、みんなの時間を止めるんです。そうすれば、僕

は一番になれる。

――― M 4 「世界で一番はやい足」

プ・チ・小学生

タタタタタタタタ タタタタタ
タタタタタタタタ タタタタタ

プリンさん

足が遅いと損ばかり 鬼ごっこならいつも鬼
誰も捕まえられなくて 悲しくなって泣き出した

誰にも負けない 速い足があれば

あの日の僕は 泣かずにすんだのさ

プ・チ・小学生

僕が一番ほしいもの 世界で一番はやい足

1 コーラス目の間に、小学生たちが走る。マサルが一番遅い。

プ・チ・小学生

タタタタタタタタ　　タタタタタ
タタタタタタタタ　　タタタタタ

チツクさん

足が遅いと損ばかり　運動会はいつもビリ
次の組の一番に　抜かれてまたまた泣き出した
誰にも負けない　速い足があれば
あの日のは　泣かずにすんだのさ
僕が一番ほしいもの　世界で一番はやい足

プ・チ・小学生

2 コーラス目の間に、小学生たちが走る。マサルは「あやつり時計」を持って走る。針を止めて、他の小学生に向ける。向けられた小学生は、次々と止まる。マサルは一番になる。チツクさんがマサルの手から「あやつり時計」を取り上げる。

チツクさん

ダメだダメだ。「あやつり時計」を使って一番になったって、ちっともえらくない。

マサル
チツクさん

でも、僕は一番になりたいんです。
「あやつり時計」は、そんなことをするために作ったんじゃない。誰かがマンホールに落ちそうになった時、こいつを使えば、助けることができる。誰かと誰かがケンカしそうになった時、こいつを使えば、やめさせることができる。

プリンさん

「あやつり時計」は、誰かを助けるために作ったのね？

マサル

それなら、僕も助けてください。「あやつり時計」がなかったら、僕はまたビリになっちゃうんです。

チツクさん

いいじゃないか、ビリになったって。マラソンは、最後まで走り抜くことが大切なんだ。

プリンさん

そうよ、マサルくん。自分の力で精一杯走れば、それでいいのよ。

マサル

でも……あれ？　こんなところにあつたぞ。

チツクさんが、小学生たちが持ってきた時計の中から、イヌの形をした時計を取り出す。

チツクさん

プリンさん、これがあなたの目覚まし時計です。(と差し出す)

プリンさん

え？(と受け取る)でも、私の時計はこんな形じゃないわ。僕が改造したんです。あなたは寝ぼけると、時計を叩く。しかし、この時計を叩いたら大変だ。ワンと吠えて、あなたの手にかみつきます。

プリンさん

かみつかれたら、痛いじゃない。それで目が覚めるといふわけです。なかなかいいアイデアでしょう？

チツクさん

(小学生たちに)さあ、今日はもう店じまいだ。時計を片づけるのを、手伝ってくれないか？

チツクさんと小学生たちが、時計を奥へ運ぶ。

プリンさん

「あやつり時計」って、すごいわね。みなさんだったら、どんなふうに使いますか？　マサルくんみたいに、マラソン大会で一番になりたいっ

て思う？ 実は、私も足が遅いんです。だから、マサルくんの気持ちはよくわかる。でも、「あやつり時計」で一番になったって、あんまりうれしくないんじゃないかな。やっぱり自分の力で走らなくちゃ。マサルくんも、自分の力で走ってくれればいいけど。

プリンさんが去る。

マサルがやってくる。

マサル 　　ただいま。

反対側から、ママがやってくる。

ママ 　　お帰りなさい。(とマサルの顔を見て) なんだ、マサルだったの。

マサル 　　おなかが空いた。何か食べるものない？
 ママ 　　もうすぐ夕ごはんよ。我慢なさい。

そこへ、ミチコがやってくる。

ミチコ 　　ただいま。

ママ 　　お帰りなさい、ミチコ。おなかは空いてない？
 ミチコ 　　ペコペコ。マラソン大会の練習で、5キロも走ったから。

ママ 　　そんなに走ったの？ だったら、すぐに何か食べなくちゃ。何が食べた
 い？

ミチコ 　　ケーキ。
 ママ 　　わかった。プリンさんに頼んで、持ってきてもらおうわ。

マサル
ママ
マサル
ママ

わーい！ ケーキだケーキだ！
あら、マサルは食べちゃダメよ。食べていいのは、ミチコだけ。
え？ またお姉ちゃんだけ？
（受話器を取って）もしもし、プリンさんですか？ すいませんけど、
ケーキを一つ、持ってきてください。

そこへ、パパがやってくる。

パパ
ママ
ママ
パパ
ママ
ママ
ミチコ
ママ
ママ
マサル
ママ
ママ
ミチコ
ママ

ほう、ケーキか。今日は誰かの誕生日なのか？
（受話器を置いて）違います。明日はマラソン大会なんですよ。ミチコ
には、栄養をたっぷりつけて、一番になってもらわないと。
去年は一番だったもんなあ。今年も一番になれそうか？
わかんない。でも、がんばる。
ママが応援してるわよ。絶対に一番になっただけ。
マサルはどうなんだ。去年は何番だったわけ。
五〇〇番。
要するに、ビリだったのよ。今年もビリに決まってるわ。
いや、がんばれば、もっと上に行けるさ。一番は無理でも、四九九番ぐ
らいなら。
無理無理。マサルはパパに似て、足が遅いんです。そこへ行くと、ミチ
コはママに似て、足が速いのよね。
今日、テストで百点取っちゃった。
ミチコはママに似て、頭もいいのよ。そこへ行くと、マサルはパパに似

ママ
パパ

て、頭もダメ。
がんばれば、もっとよくなるさ。
いいえ、ダメに決まっています。お姉ちゃんはこんなにもいい子なのに、どうして弟はダメなんだろう。

――――
M5 「お姉ちゃんのように」

ママ

たった二人のキョーダイなのに　ハハハ
どうしてこんなに違うのかしら　ハハハ
パパもママも同じなのに　ハハハ
どうしてこんなに違うのかしら　ハハハ
たとえば――

ママ・ミチコ
パパ・マサル
ママ・ミチコ
パパ・マサル
ママ・マサル
ママ・マサル

お姉ちゃんはピーマンが食べられる
弟はピーマンを見ただけで逃げる
お姉ちゃんは靴を脱いだらそろえる
弟はあつちへポイこつちへポイポイ
お姉ちゃんのようにしなさいって
お姉ちゃんのようにしなさいって
いつも言ってるのに

そこへ、プリンさんがやってくる。手にはケーキとホーキを持っている。

プリンさん
ママ

こんにちは。ケーキを持ってきました。(と差し出す)
あら、プリンさん。ごくろうさま。(と受け取る)

ママはケーキをミチコに見せる。マサルが近寄ると、背中隠してしまふ。

パパ

たった二人のキョーダイだから　ハハハ
パパは二人とも大好きなんだ　ハハハ

ママ

ママもあんまりガミガミ言わず　ハハハ
マサルを応援してあげようよ　ハハハ
私だってそうしたいのよ。でも――

ママ・ミチコ
パパ・マサル
ママ・ミチコ
パパ・マサル
ママ・ミチコ
ママ・マサル

お姉ちゃんはハンカチで手を拭く
弟はシャツで拭くズボンで拭く
お姉ちゃんは夜一人でトイレに行ける
弟は行けない　だからおねしよする
お姉ちゃんのようにしなさいって
お姉ちゃんのようにしなさいって
いつも言ってるのに

ママ
プリンさん
ママ
マサル

さあ、ミチコ。このケーキは、あなた一人で食べていいのよ。
マサルくんは食べちゃいけないですか？
一番になったら、食べさせてあげるわ。一番になったらね。
いいよ。僕は食べたくない。

マサルが去る。

パパ

おいおい。あれじゃ、マサルがかわいそうじゃないか。

ママ

あなたはマサルに甘すぎるんです。だから、いつまでたっても、お姉ち

パパ

やんのようになれないのよ。

ママ

しかし……。

パパ

さあ、ミチコ。キッチンへ行きましょう。

ママ

こら、ちよつと待ちなさい。

ママ・ミチコ・パパが去る。

プリンさん

マサルくん、かわいそうね。いつも、お姉ちゃんと比べられて。マサルくんが一番になりたいて言っただのは、お姉ちゃんに負けたくないからなのね。気持ちにはよくわかるけど、どうしたらいいのかな。

プリンさんが去る。

マサルがやってくる。

マサル

あーあ。僕も一番になりたいなあ。「あやつり時計」があればなあ。

そこへ、黒い忍者姿の男が現れる。猿飛ゴンスケである。

ゴンスケ

「あやつり時計」じゃと？

マサル

誰だ！

ゴンスケ

静かにせい。言う通りにしないと、痛い目に合うぞ。

マサル

パパ！ 僕の部屋に、変なおじさんがいるよ！

ゴンスケ

えーい、うるさい。コザル軍団、あいつを静かにさせるんじや。

ゴンスケの後ろから、黒い忍者姿の子供たちが飛び出す。猿飛コザル軍団である。マサルの体を抑え、頭に黒い袋をかぶせてしまう。

ゴンスケ

どうじゃ、これなら口がきけまい。忍法・見ザル言わザル聞かザルじや。

マサル

(暴れる)

ゴンスケ

ワシの言う通りにするか。

マサル

(うなづく)

ゴンスケ

よし。イチスケ、袋を取ってやれ。

イチスケが袋を取ってやる。しかし、他のコザルはマサルを抑えたまま。

マサル
ゴンスケ

ひどいじゃないか。いきなりこんなことをして。
おぬしが静かにせんからじゃ。それより、一つ聞きたいことがある。

マサル

「あやつり時計」はどこじゃ。

ゴンスケ

「あやつり時計」？
どこじゃと聞いておるんじゃ。

マサル

ここにはないよ。

ゴンスケ

嘘をつくな。さっき「あやつり時計」があると聞いたじゃろう。

マサル

言っけないよ。僕は「あやつり時計」があればなあって言ったんだ。

ゴンスケ

黙れ黙れ。それ以上嘘をつくど、忍法・顔ワサビをかけるぞ。

マサル

顔ワサビ？

ゴンスケ

顔にワサビを塗りたくるんじゃ。しみるぞ。

マサル

僕は嘘なんかついてない。「あやつり時計」は、チツクさんの家にある

マサル

んだ。

ゴンスケ

そんなことはわかっておる。だから、ここへ来たんじゃろうが。おいニ

マサル

スケ。チツクの顔にワサビを塗りたくってやれ。

ニスケがワサビを取り出す。

マサル

ちよっと待ってよ。僕はチツクさんじゃないよ。

ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
コザル軍団
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
なんじゃと？
チツクさんの家は隣だよ。おじさんは家を間違えたんだ。
しまった。また間違えたか。
お頭。
すまんすまん。ワシとしたことが、つい慌てちゃって。
おじさん、誰なの？ もしかして、泥棒？
愚か者。ワシがそんな悪いことをする人間に見えるか。
見える。
見えるかもしれんが、ワシは泥棒ではない。ワシの名前は、猿飛ゴンスケ。日本一の忍者じゃ。

――――
M 6 「忍者ブギ」
――――

ゴンスケ・軍団
忍者じゃ忍者 忍者ブギ イエー！
忍者になれば この世は天国じゃ

ゴンスケ
ワシは忍者じゃ とつてもすごいんじや
できないことなど なんにもないんじや
水の上でも スイスイ歩けるんじや
お城の壁でも スイスイ登れるんじや
隠し芸大会に出れば優勝じゃ

ゴンスケ・軍団
忍者じゃ忍者 忍者ブギ イエー！

ゴンスケ

忍者になれば この世は天国じゃ

ワシは忍者じゃ とつても強いんじや
こわいものなど なんにもないんじや

手裏剣投げれば 百発百中じや

それでも負けたら サツサと逃げるんじや
逃げ足も速い 時速百キロじや

マサル

ゴンスケ

マサル

ゴンスケ

サンスケ

ゴンスケ

サンスケ

ゴンスケ

マサル

ゴンスケ

マサル

ゴンスケ

マサル

マサル

すごい。本当に時速百キロで走れるの？
本当じゃとも。なにしろ、ワシは忍者じゃからな。
僕も忍者になったら、足が速くなるかな？
修行すればな。しかし、忍者の修行は厳しいぞ。おぬしに辛抱できるかな？

お頭。

どうした、サンスケ。

「あやつり時計」はどうするんですか？

そうじゃった、そうじゃった。チックの家は隣じや。今からすぐに行く
としよう。

おじさん、「あやつり時計」を盗むつもり？

盗むとは人聞きの悪い。ちやんとお金を払って買うつもりじや。

おかしいなあ。チックさんは、売るなんて言っただけだ。

おぬし、チックと友だちなのか？

友だちっていうか、家が隣だから、よく遊びに行くよ。

ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ

ということとは、チツクの家の中に入ったことがあるんじゃないやな？
何度も入ったよ。どこにどんな時計が置いてあるかも知ってる。

おぬし、ワシの仲間に入らんか。
仲間って？

忍者にならんかと言っておるんじゃないや。忍者になれば、なんでもできるよ
うになるぞ。女の子にも、もてるぞ。

でも、修行が厳しいんでしよう？

なあに、ほんのちよつとの辛抱じゃ。おぬしにはなかなか見所がある。
きつと立派な忍者になれるぞ。

そうかなあ。

おぬし、名前はなんという。

マサル。

ほら見ろ。名前の中にサルが入っておる。ワシら猿飛の仲間に入ると、
生まれた時から決まっておったのじゃ。

そうだったのか。

どうじゃ。決心がついたか？

忍者になれば、足が速くなるんだよね？

時速百キロじゃ。カール・ルイスなんか、屁でもないぞ。

よし、僕は忍者になる。おじさんの仲間に入るよ。

それなら、ワシのことをおじさんと呼ぶのはやめろ。これからは、お頭
と呼ぶんじゃないや。

わかったよ、おじさん。

じゃから、おじさんじゃなくて、お頭。

マサル
ゴンスケ

お頭。
よし、さつそく修行の開始じゃ。行くぞ、コザル軍団。

ゴンスケ・マサル・コザル軍団が去る。

ママがやってくる。

ママ マサル、夕ごはんができたわよ。マサル？ マサル？

パパとミチコがやってくる。

パパ どうしたんだ、マサルは。

ママ それが、どこにもいないのよ。

パパ おかしいな。さつき、この部屋から声が聞こえたのに。

ミチコ もしかして、家出しちゃったんじゃない？

ママ どうして？

ミチコ ママがケーキを食べさせなかったから。

ママ それぐらいのことで、家出なんかするかしら。

パパ いや、ミチコの言う通りかもしれないぞ。だいたいママは、マサルにガ

ミチコ ミガミ言い過ぎなんだ。

ママ 私はただ、お姉ちゃんのようになってほしいと思って。

パパ ミチコはミチコ、マサルはマサルじゃないか。なんでもお姉ちゃんによ

うについて言ってたって、無理に決まってるんだ。

ミチコ パパだって、同じことを言ってたじゃない。

パパ
それは、ママがこわいから……。

そこへ、プリンさんがやってくる。手にはホーキを持っている。

プリンさん
ママ
プリンさん
ママ
パパ
ミチコ
パパ
プリンさん
ママ
プリンさん
パパ
プリンさん
パパ
プリンさん
プリンさん

あの、私、そろそろ失礼します。
プリンさん！ 助けてください！
どうかしたんですか？
マサルが家出しちゃったんです。私がケーキを食べさせなかったから。
私はマサルを叱ってばかりいた。お姉ちゃんのようにしなさいって。
私はマサルをかばってあげなかった。マサルは私の弟なのに。
誰もマサルの気持ちを考えなかった。だから、家出したんです。
置き手紙はなかったんですか？
どこにもないようです。まさか、二度と帰ってこないつもりかな。
私が悪いのよ。私がマサルの心を傷つけたから。
ママさん、泣かないで。マサルくんは、私が必ず見つけてみせます。
しかし、何も手がかりがないのに、どうやって探すんですか？
空から探せば、すぐに見つかるわ。
空から？ プリンさんは、飛行機を持ってるんですか？
（ホーキを見せて）これくらいの大きさですけれど。
ホーキぐらい？ そんなに小さい飛行機があるのかな。
ママさん、一つだけ約束してください。マサルくんが帰ってきたら、こ
う言っただけです。ごめんね、マサル。ママはマサルが一番になれ
なくても、マサルのことが大好きよって。

ママ
言います。必ず言いますから、マサルを助けてください。マサルが悪い

プリンさん
人に連れて行かれたりしたら、私は……。私に任せてください。それじゃ、また後で。

プリンさんが去る。

—————
M7 「お姉ちゃんのように」

ママ
たった二人のキョーダイだから
ハハハ

ママは二人とも大好きなよ
ハハハ

ママ・パパ
ミチコがとっても大切なよ
ハハハ

マサルもとっても大切なよ
ハハハ

お姉ちゃんのようにしなさいって
お姉ちゃんのようにしなさいって
言っごめんね

パパ・ママ・ミチコが去る。

葉と枝と幹がやってくる。中央に集まる。すると、一本の木ができる。バレリーナによって作られた、大きな木である。そこへ、風がやってくる。葉が揺れる。枝が揺れる。幹が揺れる。風がだんだん強くなる。葉が飛ぶ。枝が飛ぶ。幹が飛ぶ。大きな木が空へと舞い上がる。空の彼方へ、風と木が消えていく。

反対側から、ゴンスケ・マサル・コザル軍団がやってくる。

ゴンスケ よし、ここはなかなか広い野原じゃな。修行するには持ってこいじゃ。

マサル おじさん。

ゴンスケ おじさんじゃなくて、お頭。

マサル お頭。修行って、どんなことをするの？

ゴンスケ よいか、マサル。おぬしは忍者になると言った。が、実際になれるかどうかはまだわからん。なぜなら、忍者になるには、三つの条件があるからじゃ。イチスケ。

イチスケ 一つ。忍者はサルのようにすばやく動けなければならぬ。

ゴンスケ ニスケ。

ニスケ 二つ。忍者はネコのように音をたてずに動けなければならぬ。

ゴンスケ サンスケ。

サンスケ
ゴンスケ

三つ。忍者はイヌのように敵をおそれぬ勇気がなければならぬ。どうじゃ。今の三つの中で、おぬしにできることはあるか。

マサル
ゴンスケ

一つもない。やっぱり、僕は忍者になれないんだ。諦めるのはまだ早い。修行をすれば、ワシのようにカッコイイ忍者にな

マサル
ゴンスケ

れるかもしれないぞ。カッコイイ？

ワシらは猿飛忍者じゃ。何より初めに、サルのようにすばやく動けなければならぬ。そこで、すばやく動くための修行をする。イチスケ、ニスケ、例の物を持ってこい。

イチスケとニスケが去る。

マサル

わかった。手裏剣を取りに行ったんだね？ お頭が手裏剣を投げて、僕

ゴンスケ

がよける。それを繰り返せば、すばやく動けるようになる。愚か者。今のおぬしに手裏剣を投げたら、一つもよけられんわ。体じゅうに突き刺さって、一巻の終わりじゃ。

マサル

それじゃ、何を取りに行ったの？

ゴンスケ
マサル

竹じゃ。竹？

イチスケとニスケが、3メートルほどの竹を二本持ってくる。

ゴンスケ

よいか、マサル。今からサンスケとヨンスケがお手本を見せる。後でお

マサル
ゴンスケ

ぬしにもやってもらうからな。
やるって、何を？
忍法・バンブーダンスじゃ。

イチスケとニスケが二本の竹の両端を持って、ひざまずく。曲に合わせて、開いたり閉じたりする。サンスケとヨンスケは二人の間に立ち、竹の上を飛ぶ。竹が開いたら足を閉じ、竹が閉じたら足を開く。

———M9「修行はつらいよ」

ゴンスケ・軍団

忍者になるのは大変じゃ

ゴンスケ

厳しい修行に耐えるんじゃ
サルのようにすばやく動け

そんなことを言われても
ワシは人間 サルじゃない
お尻を赤く塗ろうかな

サンスケとヨンスケが一度も間違えずにバンブーダンスを終える。ゴンスケ・マサル・コザル軍団が拍手をする。

ゴンスケ

よし、見事じゃ。(客席に向かって) ころら、おぬしたちも拍手をせんか。

お客さんたちも拍手をする。

マサル
ゴンスケ

よし、今度は僕だね？
おぬしにはまだ無理じゃ。他の者がやるのを見て、研究せい。（客席に
向かって）誰か、やってみたい者はおるか。忍者になるチャンスじゃぞ。

客席の子供たちが手を挙げるだろう。ゴンスケが、その中から二人を選んで、ステージ
に連れてくる。

ゴンスケ・軍団

忍者になるのは大変じゃ
厳しい修行に耐えるんじゃ

ゴンスケ

ネコのように静かに動け
そんなことを言われても
ワシは人間　ネコじゃない
おテテで顔を洗おうかな

子供たちがバンブーダンスを終える。成功しても、失敗しても、みんなで拍手をする。

マサル

よし、今度こそ僕だね？

ゴンスケ

おぬし、大丈夫か？

マサル

心配しないでよ。これぐらい簡単だよ。
なめてかかると、痛い目に合うぞ。

ゴンスケ・軍団

忍者になるのは大変じゃ

ゴンスケ

厳しい修行に耐えるんじや
イヌのように勇気を持って
そんなことを言われても
ワシは人間 イヌじゃない
道端でオシッコしようか——

マサルが失敗して、転ぶ。

マサル
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ

ダメだ。やっぱり、僕は忍者になれないんだ。
なあに、途中まではうまく行っておった。初めてにしては、上出来じゃ。
本当？
本当じゃとも。よし、それでは次の修行に移るか。

そこへ、プリンさんがやってくる。手にはホーキを持っている。

プリンさん

マサル

プリンさん

ゴンスケ

プリンさん

ゴンスケ

プリンさん

ゴンスケ

マサル

ゴンスケ

プリンさん

ゴンスケ

プリンさん

ゴンスケ

プリンさん

マサルくん、こんな所で何してるの？

プリンさん。

ママが心配してるわ。すぐにお家へ帰りましょう。

ちよっと待て。おぬしは何者じゃ。

私はプリン。マサルくんの友だちよ。そういうあなたは誰？

ワシの名前は、猿飛ゴンスケ。日本の忍者じゃ。

忍者ですって？ マサルくん、どうしてこんな人と一緒にいるの？

ワシの仲間に入ったからじゃ。そうじゃな、マサル。

……うん。

マサルは忍者になると言った。だから、こうして修行しておるんじゃ。

この子はまだ小学生です。忍者になんかなれません。さあマサルくん、

帰りましょう。

マサルは帰らないと言っておるぞ。

(マサルに) そんなこと、言っていないわよね？

ワシにはマサルの気持ちかわかる。マサルは足が速くなりたい。足が速

くなるためには、忍者になるしかないんじゃ。

(マサルに) だから、この人の仲間に入ったの？

マサル
：：うん。

プリンさん
マラソン大会は明日なのよ。たった一晩で、足が速くなると思う？

ゴンスケ
それは本人の努力次第じゃ。どうするマサル。諦めて、こいつと一緒に

家に帰るか。

僕は帰らない。忍者になる修行をする。

マサル
えらいぞマサル。それでこそ、ワシの仲間じゃ。

プリンさん
私はママと約束したの。マサルくんを、必ず家へ連れて帰るって。

ゴンスケ
しかし、マサルは帰らないと言った。諦めるしかないな。

プリンさん
マサルくんを返して。

ゴンスケ
諦めろと言っておるんじゃ。言う通りにしないと、痛い目に合うぞ。

プリンさん
マサルくんを返して。

ゴンスケ
えーい、うるさい。コザル軍団、あいつを追い払うんじゃ。

コザル軍団がプリンさんを囲む。

プリンさん
（空を見上げて）あれ、月がない。雲に隠れちゃったわ。どうしよう。

月の光がないと、私は魔法が使えないのよ。

コザル軍団がプリンさんの体をつかむ。

プリンさん
助けて！ 誰か、助けて！

その時、稲妻が走る。コザル軍団がバタバタと倒れる。

ゴンスケ

これは、忍法・稲妻落とし。この技が使える忍者は、日本にたった一人
しかない。出てこい、カゲロウ！

ピンクの忍者姿の女が現れる。くノ一のカゲロウである。

—————
M10「影の女のバラード」

カゲロウ

忍びよる影 黒い影

影にため息は似合わない

わかっちゃいるけど

悲しい夜もある

影はいつでも一人きり

今夜も一人で酒を飲みほすの

カゲロウがプリンさんの手をつかむ。

カゲロウ

おまえさんの勝てる相手じゃないよ。さっさとお家へお帰り。

ゴンスケ

久しぶりだな、カゲロウ。

カゲロウ

こんな所で会えるとはね。おまえさんも、例の時計を狙ってるのかい。

ゴンスケ

とんでもない。ワシは、若い者と修行をしておるだけじゃ。

カゲロウ

そうかい。それじゃ、この人は連れていってもいいね。

ゴンスケ

好きにしる。ワシには関係ない。

カゲロウ
プリンさん
カゲロウ

さあ、お家へお帰り。
でも、マサルがくんが。
あの子は男の子だ。一人でなんとかするよ。ゴンスケ、また近いうちに
会えそうだね。

カゲロウとプリンさんが去る。

ゴンスケ
マサル
ゴンスケ

あの女もワシと同じ物を狙っておるようじゃな。
同じ物って？
なんでもない。さあ、修行の続きじゃ。次の修行は別の場所でやること
にしよう。行くぞ、コザル軍団。

ゴンスケ・マサル・コザル軍団が去る。

小学生たちがやってくる。

小学生たち

チツクさん、こんばんは。

すぐにチツクさんがやってくる。

チツクさん

やあやあ、みんな、こんばんは。こんな時間になんの用事だい？

ヨシヒロ

僕たち、マサルくんを探してるんです。

チツクさん

マサルくん、どうかしたの？

エツコ

いなくなっちゃったんです。プリンさんが探しに行っただんですけど、その

チツクさん

それは心配だな。よし、僕も一緒に探しに行こう。

そこへ、プリンさんとカゲロウがやってくる。プリンさんの手にはホーキ。

小学生たち

プリンさん！

チツクさん

マサルくんは見つかりましたか？

プリンさん

見つけたことは見つかったけど、家には帰らないって言ってるの。

チツクさん

いったいどうして。

カゲロウ

おまえさんが、チツクさんかい？

チツクさん

そうですけど、あなたは？

カゲロウ

あたしはカゲロウ。おまえさんに知らせたいことがあって、ここまで来たんだ。

チツクさん

知らせたいことって？

カゲロウ

猿飛ゴンスケって男があんたの「あやつり時計」を狙ってる。気を付けないと、盗まれちゃうよ。

チツクさん

それは大変だ。みんな、急いで「あやつり時計」を持ってきてくれ。

小学生たちが奥へ入っていく。

チツクさん

ところで、猿飛ゴンスケって誰ですか？

カゲロウ

忍者だよ。自分がほしいと思ったものは、どんなずるい手を使ってでも、必ず手に入れる男さ。

プリンさん

あの人、そんなに悪い人だったの？

ヨシヒロやエツコたちが大きな鳩時計を持ってくる。

ヨシヒロ

チツクさん、これですか？

チツクさん

違う違う。これはポッポちゃんだ。

エツコ

ポッポちゃん？

チツクさん

鳩の名前だよ。この時計の中に入ってるんだ。

イズミが大きな銀色の時計を持ってくる。

イズミ　これ？（と差し出す）

チツクさん　そうだ。（と受け取る）これが「あやつり時計」だ。

プリンさん　ゴンスケが来る前に、どこかへ隠した方がいんじゃない？

カゲロウ　その前に、ちよつとあたしに見せておくれよ。

カゲロウが「あやつり時計」に手を伸ばす。その時、「あやつり時計」が宙に浮く。

カゲロウ　これは、忍法・宙ぶらりん。この技が使える忍者は、日本にたった一人

しかいない。出てこい、服部ヤルゾウ！

白い忍者姿の男が現れる。服部ヤルゾウである。

—————
M二「影の男のバラード」

ヤルゾウ

忍びよる影　黒い影

影に振り返る過去はない

それでもときどき

思い出す笑顔

影はいつでも夢を見る

あいつともう一度出会う日の夢を

ヤルゾウが「あやつり時計」をつかむ。

ヤルゾウ 危ないところでござったな、チツクどの。(と差し出す)

チツクさん

(受け取り) あなたは?

ヤルゾウ 警視庁忍者課の服部ヤルゾウでござる。この女は貴殿を騙して、この時計を盗むつもりだったのでござる。

カゲロウ

あたしを逮捕する気かい?

ヤルゾウ

おぬしはまだ何も盗んでおらぬ。だから、逮捕はせぬ。

カゲロウ

ありがとうよ、見逃してくれて。

ヤルゾウ

そのかわり、拙者の手助けをしてもらいたい。

カゲロウ

手助けって?

ヤルゾウ

ゴンスケを逮捕する手助けよ。まさかイヤとは言わぬであろうな?

カゲロウ

仕方ないね。言う通りにするよ。

ヤルゾウ

チツクどの。貴殿の作った「あやつり時計」は、日本中の忍者に狙われ

チツクさん

ておる。特に心配なのが、猿飛ゴンスケ。

ヤルゾウ

それはカゲロウさんから聞きました。とても悪いヤツだそうですね。

カゲロウ

悪いというよりずるいやツでござる。くれぐれも用心してください。拙

者近所をパトロールしてまいる。カゲロウ、おぬしも一緒に行くのだ。わかりましたよ。

ヤルゾウとカゲロウが去る。

ヨシヒロ

僕たち、マサルくんを探しに行きます。

プリンさん
チックさん

私はマサルくんの家へ行きます。ママさんに報告しないと。
僕はここで「あやつり時計」を見張ってます。ゴンスケが来たなら、この
時計で時間を止めてやるんだ。

プリンさんと小学生たちが去る。チックさんが床に座り込む。

チックさん

あれ？　なんだか眠くなってきたなあ。

チックさんが大きな鳩時計によりかかって、顔を伏せる。

ゴンスケ・マサル・コザル軍団がやってくる。

ゴンスケ よいか、マサル。忍者はネコのように、音を立てずに動けなければならぬ。そこで、音を立てずに動くための修行をする。

マサル ここで？

ゴンスケ 今から、この家の中に忍び込むんじや。

マサル でも、ここはチックさんの家だよ。

ゴンスケ おぬしは、この家の中に詳しいそうじやな。ならば、先頭に立つてもら

マサル おうか。

ゴンスケ まさか、泥棒をするつもり？

マサル 愚か者。これはあくまでも修行じや。忍び込むだけで、泥棒はせん。

ゴンスケ 本当？

マサル ワシは「あやつり時計」を買いに来たんじや。うまく中に忍び込めたら、
「すいません、時計をください」と言うわい。

マサル わかった。先頭に立てばいいんだね？

ゴンスケ くれぐれも音を立てるなよ。忍法・ぬき足さし足しのび足じや。

マサル・ゴンスケ・コザル軍団が、チックさんの家の中に入っていく。

—————M12「ぬき足さし足しのび足」

ゴンスケ・軍団

ソロ ソロ ソロソロソロ
ヒタ ヒタ ヒタヒタヒタ

ゴンスケ

ママがとっても大事にしてる
香水の瓶 割っちゃった
ママにバレたら命はないぞ
知らんぷりして逃げまじよう
さあ ぬき足さし足しのび足

ゴンスケ・軍団

チツクさんが顔を上げる。

チツクさん

誰だ！

マサル・ゴンスケ・コザル軍団が、ピタリと止まる。

チツクさん

誰だ！ 誰だ！ （歌って）空の彼方に踊る影。白い翼のガツチャマン。

チツクさんが顔を伏せる。

ゴンスケ

なんじゃ、寝言か。びっくりさせおって。

マサル
ゴンスケ

あの人がチツクさんだよ。僕が起こしてこようか？
せっかく寝ているのに、なぜわざわざ起こす。今のうちに「あやつり時計」を探すんじゃない。

マサル

「あやつり時計」なら、チツクさんが持ってるよ。

ゴンスケ

よし、おぬしが取ってこい。

マサル

やつぱり、泥棒をするつもりなんだ。

ゴンスケ

愚か者。これも修行じゃ。うまく取ってこられたら、「すいません、時計をください」と言うわい。

マサル

本当？

ゴンスケ

いいから早く行くんじゃない。

マサルがチツクさんに近寄っていく。

ゴンスケ・軍団

ソロソロ ソロソロソロ
ヒタヒタ ヒタヒタヒタ

ゴンスケ

パパがとっても大事にしてる

ゴルフのパター 折っちゃった

パパが知ったらオイオイ泣くぞ

バッグに戻して逃げましょう

ゴンスケ・軍団

さあ ぬき足さし足しのび足

マサルが「あやつり時計」を取る。と、チツクさんが顔を上げる。

チツクさん
ゴンスケ

マサルくん、こんな所で何をしてるんだ？
マサル！ こっちへ来るんじゃない！

マサルがゴンスケのところまで走る。ゴンスケが「あやつり時計」を取る。

チツクさん

君は誰だ。その時計をどうするつもりだ。

ゴンスケ

ワシの名前は、猿飛ゴンスケ。日本一の忍者じゃ。

マサル

お頭、早く言ってよ。

ゴンスケ

何をじゃ。
「すみません、時計をください」って。
わかっておる、わかっておる。(チツクさんに)すみません、時計をください。

チツクさん

ダメだ。その時計は誰にも売らない。

ゴンスケ

え？ タダでくれるんですか？ それはどうもありがとう。
僕はそんなこと言ってないぞ。

チツクさん

お頭、時計を返してよ。返さないと、泥棒になっちゃうよ。

マサル

ワシは初めからそのつもりじゃ。
僕を騙したの？

ゴンスケ

今さら何を言う。おぬしも、ワシに協力したではないか。おぬしはワシの仲間じゃ。つまり、泥棒じゃ。

チツクさん

(ゴンスケの前に立ち)その時計を返せ。

ゴンスケ
チツクさん

邪魔をすると痛い目に合うぞ。
その時計を、悪いヤツに渡すわけにはいかないんだ。

チツクさんがゴンスケに飛びかかる。ゴンスケが「あやつり時計」をチツクさんに向けて、針を止める。すると、チツクさんの動きが止まる。ゴンスケがチツクさんの頭を叩く。チツクさんが気を失って、倒れる。

マサル
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ

チツクさん！ チツクさん！
マサル、おぬしもワシと一緒に来い。
イヤだ。僕は泥棒は嫌いだ。
（マサルの手をつかみ）おぬしはもうワシの仲間じゃ。勝手にやめるのは許さん。コザル軍団、忍者やしきへ帰るぞ。 勝手にやめるの

ゴンスケ・マサル・コザル軍団が去る。

反対側から、プリンさんがやってくる。手にはホーキを持っている。

プリンさん　　チックさん、どうしたの。すっかりして。

チックさんが目を覚ます。

チックさん　　あ、プリンさん。大変です。「あやつり時計」が盗まれたんです。
プリンさん　　誰に？

チックさん　　猿飛ゴンスケに。それから、マサルくんも一緒にいました。

プリンさん　　やっぱり。

チックさん　　どうしましょう。あの時計を悪いことに使われたら、世界は大混乱になる。

プリンさん　　私になんとかして取り返すわ。ゴンスケとマサルくんは、どこへ行ったの？

チックさん　　わかりません。僕は気を失ってたんで。

プリンさん　　また空から探すしかないわね。

チックさん　　空から？　外はもう真っ暗ですよ。空からじゃ、何も見えませんよ。
プリンさん　　それじゃ、どうすればいいのよ。

その時、鳩時計からポッポが出てきて、「ポッポー」と鳴く。八回鳴いて、また時計の中に入る。

プリンさん

そうだ。あの鳩時計に聞いてみましょう。

チックさん

ポッポちゃんに？ でも、ポッポちゃんは話ができないんですよ。

プリンさん
チックさん

大丈夫。月の光に助けてもらえば、きっとできるようになる。
月の光に？

その時、空からトンガリぼうしが飛んでくる。プリンさんがつかみ、頭にかぶる。

—————
M13「ムーンライト・マジック」

プリンさん

お願い月の光よ 私の声を聞いてよ

闇に迷った旅人に 道を教えるその光で

私の悲しみ消して 明日はきつと

いい日がくると 信じていたいから

ルーナルルーナル

白くて大きな満月が見える。その満月から、白い光がやってくる。それは月の光のバレリーナ。

プリンさん

お願い月の光よ 私の声を聞いてよ

家をなくした子犬に　ほほえみかけるその光で
私の淋しさ消して　いつかまた
あの人に会えると　信じていたいから
ルーナルルーナル

プリンさん
チツクさん
さあ、チツクさんも一緒に言つて。ルーナルルーナル！

月の光が鳩時計を包む。鳩時計がまぶしく輝く。月の光が消え去る。と、鳩時計の中から、ポツポが出ってくる。

チツクさん　あつ！　ポツポちゃんが出てきた！

プリンさん　こんばんは、ポツポちゃん。

ポツポ　私を呼んだのはあなた？

プリンさん　そうよ。

ポツポ　勝手なことしないでよ。私が外へ出るのは、一時間に一回つて決まってるのよ。

チツクさん　プリンさんは、僕の友だちなんだ。ポツポちゃんと話がしたかったんだよ。

ポツポ　なんだ、チツクさんの友だちなの。それなら、許してあげる。

プリンさん　ありがとう、ポツポちゃん。

ポツポ　それで、話つて何？

プリンさん　さつき、猿飛ゴンスケつて人が来たでしよう？　どこへ行くか、言つて

ポッポ
プリンさん
ポッポ

プリンさん
チックさん
プリンさん
チックさん
プリンさん

なかつた？

忍者やしきへ帰るって言ってたわ。

マサルくんも一緒だった？

ええ。マサルくんはイヤだって言ったのに、無理やり引っ張っていったやつ。

わかつた。急いで後を追いかけるわ。

僕も行きますよ。「あやつり時計」を作ったのは、僕なんだから。

それじゃ、このホーキに乗って。

ホーキに？ プリンさん、あなたはもしかしてもしかすると。
さあ、口を閉じて。忍者やしきに出発よ。

プリンさんとチックさんが去る。

ヤルゾウと小学生たちがやってくる。

ヤルゾウ

猿飛ゴンスケは、確かにこのやしきの中に入ったのだな？

ヨシヒロ

間違いありません。マサルくんも一緒でした。

ヤルゾウ

よし。おぬしらはここで待っているのだ。拙者が中に入ってみる。

エツコ

私たちも行きます。

ヤルゾウ

それはダメだ。このやしきは忍者やしきだ。どんな危険が待っておるか

わからぬ。

ヨシヒロ

でも、僕たちもマサルくんを助けたいんです。

エツコ

マサルくんは、私たちの友だから。

ヤルゾウ

そこまで言うなら、拙者の後についてくるがいい。ただし、拙者の命令

には絶対に従うのだぞ。

ヤルゾウと小学生たちが、忍者やしきの中に入っていく。すると、コザル軍団が現れる。手には、矢印のついたプラカードを持っている。

ヤルゾウ

おや、こんな所に矢印があるぞ。こちらに行けという意味だな。

ヤルゾウと小学生たちが、矢印に従って進む。すると、目の前に、鉄格子の扉が現れる。

ヤルゾウ　　おや、こんな所に扉があるぞ。ここに入れという意味だな。

ヤルゾウと小学生たちが、扉の中に入る。すると、コザル軍団が扉を閉める。そこは檻の中だった。

ヤルゾウ　　あつ！　しまった！

ゴンスケとマサルがやってくる。ゴンスケの手には「あやつり時計」。

ゴンスケ　小学生たち　引っかかったな、ヤルゾウ。これぞ忍法・ヤルゾウホイホイじゃ。

マサル　マサルくん！

ヨシヒロ　みんな、どうしてここへ来たの？

マサル　僕たち、マサルくんを助けに来たんだ。

エツコ　僕を助ける？

マサル　だって、私たち、友だちでしょう？

ヤルゾウ　　ありがたいぞ、みんな。

ゴンスケ　　正々堂々と勝負しろ。

ヤルゾウ　　何が正々堂々じゃ。ワシのやしきに、黙って入ろうとしたくせに。

ゴンスケ　　拙者たちをどうするつもりだ。

ヤルゾウ　　どうもせん。このまま放っておけば、腹が空いて死ぬじやろう。

ヤルゾウ　　無念だ。

マサル
イズミちゃん。君ならすきまを通って、外に出られるんじゃない？

イズミが檻のすきまから外へ出る。

ゴンスケ
ヤルゾウ
しまった。あの檻は大人用なんじゃ。
早く扉を開けるのだ。

イズミが扉を開ける。ヤルゾウと小学生たちが外へ出る。

ヤルゾウ
これで正々堂々と勝負ができるな。

ゴンスケ
ワシに勝てると思うか。

ヤルゾウ
正義は必ず勝つのだ。行くぞ、ゴンスケ。

ゴンスケ
イチスケ、「あやつり時計」を頼むぞ。(と渡す)

ヤルゾウとゴンスケが刀を抜く。

—————M14「戦いの一生」

ヤルゾウ
忍者の一生は戦いの一生

負けたらその時 命は消える

いくら忍者でもホントはこわい

ときどき転職しようかなと思う

ヤ・ゴ・軍・小
それでも逃げるわけにはいかない

戦うことが忍者の宿命だから

ヤルゾウとゴンスケがぶつかる。激しい切り合い。が、勝負はつかない。離れて、またにらみあう。

ゴンスケ

忍者の一生は我慢の一生

海にも山にも遊びに行けない

正月も夏休みも毎日仕事

たまにはゆつくり昼寝がしたい

それでも逃げるわけにはいかない

戦うことが忍者の宿命だから

ゴ・ヤ・軍・小

ヤルゾウとゴンスケがぶつかる。激しい切り合い。と、ゴンスケが倒れ、刀が飛ぶ。

ヤルゾウ

どうやら拙者の勝ちのようだな。ゴンスケ、覚悟しろ。

ゴンスケ

イチスケ！「あやつり時計」を止めるんじや！

ヤルゾウがゴンスケに切りかかる。イチスケが「あやつり時計」をヤルゾウに向けて、針を止める。すると、ヤルゾウの刀がゴンスケの頭に当たる寸前に、ヤルゾウの動きが止まる。

ゴンスケ

ふう、危ないところじゃった。

マサル

ずるいぞ、ゴンスケ！

ゴンスケ　えーい、うるさい！　要するに、勝てばいいんじゃない。

ゴンスケが刀を拾い、ヤルゾウに近づく。

ゴンスケ　どうやらワシの勝ちのようじゃな。ヤルゾウ、覚悟しろ。

そこへ、プリンさんとチツクさんが飛び出す。

チツクさん　待て！

おぬしら、どこから入った。

プリンさん　二階の窓から入ったのよ。ホーキに乗ってね。

ゴンスケ　ホーキに乗って？　まさか、おぬしも忍者なのか？

チツクさん　違うよ。実はこの人は――

プリンさん　ねえ、ゴンスケ。これ以上、悪いことをするのはやめて。

チツクさん　時計がほしいなら、僕が新しいのを作ってやるよ。

ゴンスケ　ワシは「あやつり時計」がほしいんじゃない。他の時計なんかいらん。

その時、マサルがイチスケから「あやつり時計」を奪う。

イチスケ　あ！　何をする！

マサルが走り去る。

プリンさん
ゴンスケ

マサルくん！
コザル軍団！ マサルを追うんじや！

ゴンスケとコザル軍団が走り去る。

プリンさん

みんな、マサルくんを助けるのよ。

プリンさん・チックさん・小学生が走り去る。ヤルゾウだけが残っている。と、突然、動き出す。

ヤルゾウ

ヤア！ トウ！ イエイ！（と刀を振り回し）あれ？ ゴンスケがいな
い。みんなもいない。もしかして、拙者だけ仲間はずれ？ ひどいよ、
ひどいよ！

ヤルゾウが走り去る。

ゴンスケとコザル軍団が走ってくる。

ゴンスケ よし、この部屋を探すんじや！

コザル軍団が客席を探し始める。

————M15「逃げろよサンバ」

ゴンスケ どこまで逃げても追いかけるのさ

君の背中を追いかけるのさ

ゴンスケ・軍団 逃げろよサンバ 逃げろよサンバ

どこまで逃げたつてつかまえるよサンバ

ゴンスケ どうじゃ、おったか？

ニスケ この部屋にはいないようです。

ゴンスケ よし、次の部屋へ行くぞ。

ゴンスケとコザル軍団が走り去る。反対側から、プリンさんとチツクさんが走ってくる。

プリンさん あの後ろ姿、ゴンスケじゃない？
チツクさん 僕が様子を見てきます。プリンさんはここで待っていてください。

チツクさんが走り去る。反対側から、小学生たちが走ってくる。

プリンさん どこまで逃げても追いかけてくる

執念深く追いかけてくる

プリン・小学生 逃げろよサンバ 逃げろよサンバ

早く逃げないと つかまっちゃうサンバ

チツクさんが戻ってくる。

チツクさん マサルくんはいませんでした。向こうの部屋を探しましょう。

チツクさんと小学生たちが走り去る。プリンさんも後からついていく。と、反対側から、マサルが走ってくる。手には「あやつり時計」を持っている。

マサル プリンさん！

プリンさん マサルくん！ 早くこっちへ来て！

ゴンスケの声 今、マサルの声がしたな。

プリンさん ゴンスケが来た。マサルくん、隠れて。

プリンさんとマサルが客席に隠れる。

プリンさん

(お客さんに) 私たちがここにいること、絶対に言わないでね。

そこへ、ゴンスケとコザル軍団が走ってくる。コザル軍団が客席を探し始める。

ゴンスケ

隠れてないで出てくるんじや

出てこないと痛い目に合うぞ

ゴンスケ・軍団

叩くぞサンバ つねるぞサンバ

泣きたくなかったら 出てくるんじやサンバ

ゴンスケ

どうじゃ、おったか？

サンスケ

この部屋にはいないようです。

ゴンスケ

そんなはずはない。確かに声をしたんじや。(お客さんに) おい、今こ

こに、マサルが来たじやろう。教えてくれたら、おぬしも忍者にしてや

るぞ。なぜ黙っておる。忍者になりたくないのか。(他のお客さんに)

おぬしはどうじゃ。忍者になれば、女の子にもてるぞ。何？ そんな服

を着て街を歩くのは恥ずかしい？ うるさい！ ワシだって、恥ずかし

いのを我慢しておるんじや！(他のお客さんに) おぬしはどうじゃ。こ

の服、着てみたいと思わんか？ おや？ おぬしはもう着ておるな。

(立ち上がって) あたしだよ、ゴンスケ。

カゲロウ

あつ！ おぬしはカゲロウ！
こんな所で、忍者のスカウトをするんじやないよ。みつともないじやな

カゲロウ

カゲロウ

カゲロウ

カゲロウ

カゲロウ

ゴンスケ
カゲロウ
ゴンスケ

いか。
そうか。やはりおぬしも「あやつり時計」を狙っておったのじゃな？
初めはそのつもりだったけど、今はあんたを狙ってるんだ。
ワシを？

そこへ、ヤルゾウがやってくる。

ヤルゾウ
ゴンスケ
ヤルゾウ
ゴンスケ
ヤルゾウ
ゴンスケ

拙者が頼んだのだ。おぬしを逮捕するのを、手助けしてくれとな。
ずるいぞ、二人がかりで。
おぬしにずるいと言われる覚えはない。
こうなったら、忍法を使うしかないようじゃな。
今度はどんな忍法だ。
忍法・逃げるが勝ちじゃ。コザル軍団、逃げるぞ。

ゴンスケとコザル軍団が走り去る。後を追って、ヤルゾウとカゲロウが走り去る。プリンさんとマサルが客席から出てくる。

プリンさん (お客さんに) 助けてくれてありがとう。

そこへ、チツクさんが走ってくる。

チツクさん

プリンさん、何をグズグズしてるんですか。早くマサルくんを探さない
と。あっ、マサルくん。

マサル
チツクさん
マサル
チツクさん
マサル
プリンさん
マサル
プリンさん
チツクさん
プリンさん

チツクさん、ごめんなさい。
なんだい、いきなり。
この時計、返します。(と差し出し) 取ったりして、すいませんでした。
(受け取って) 君はゴンスケに騙されたんだらう？
忍者になるための修行だと言われたんです。
マサルくんは、足が速くなりたかったのよね。
僕がゴンスケの仲間に入らなければ、こんな騒ぎは起こらなかった。本
当にごめんなさい。
君は、自分の力でこの時計を取り返した。もう気にすることはないよ。
そうよ。ママが心配してるだろうから、早くお家へ帰りましょう。

そこへ、ゴンスケとイズミが飛び出す。ゴンスケはイズミの手をつかみ、イズミの喉に刀を当てている。

ゴンスケ
プリンさん

動くな！ 動くと、こいつが痛い目に合うぞ！
イズミちゃん！

小学生たちが走ってくる。プリンさんとチツクさんのそばに来る。

小学生たち
ヨシヒロ
チツクさん
ゴンスケ
チツクさん
ゴンスケ
プリンさん
ゴンスケ

プリンさん！ チツクさん！
ごめんなさい。僕が目を離れたすきに。
ずるいぞ、ゴンスケ！
えーい、うるさい！ ワシだつて、本当はずるいことなんかしたくないんじゃ。「あやつり時計」が、どうしてもほしただけじゃ。
おまえみたいな悪いヤツに渡してたまるか。
こいつがどうなつてもいいのか。
イズミちゃんは関係ないわ。
じゃから、ワシも助けてやりたい。そのためには、「あやつり時計」が必要なんじゃ。

プリンさん
ゴンスケ
おぬしは信用できん。マサルが持ってくるんじや。

マサル
僕が？

ゴンスケ
どうした。こわいのか。

マサル
こわいもんか。イズミちゃんは、僕を助けに来てくれたんだ。今度は僕

が助ける番だ。

ゴンスケ
よし。早く持ってくるんじや。

チツクさんがマサルに「あやつり時計」を渡す。マサルがゴンスケに向かって歩き出す。そこへ、ヤルゾウが飛び出す。手には刀を持っている。

ヤルゾウ
待て！

プリンさん
ヤルゾウさん！

ヤルゾウ
ゴンスケ。おぬしの仲間は今全員逮捕した。おぬしも年貢の収め時だ。

コザル軍団がやってくる。全員ロープで縛られている。そのロープを持って、カゲロウがやってくる。

コザル軍団
お頭。

カゲロウ
こいつらを助けてほしかったら、その女の子を放しな。

ゴンスケ
ずるいぞ、人質なんて。

カゲロウ
あんたにずるいって言われる覚えはないよ。

ゴンスケ
こうなったら、忍法を使うしかないようじやな。

ヤルゾウ
ゴンスケ
また忍法か。そう言って、一人で逃げ出すつもりではなかるうな？
仲間を残して逃げはせん。忍法・カマイタチじゃ。シャキン！

コザル軍団のロープが切れる。

チツクさん
あつ！ロープが切れた！

コザル軍団が、カゲロウを捕まえる。

プリンさん
カゲロウさん！

カゲロウ
ごめんよ、あたしとしたことが。

ゴンスケ
ヤルゾウ
どうするヤルゾウ。これでもワシを逮捕するつもりか。
無念だ。

ヤルゾウが刀を捨てる。ヨンスケが拾い、ヤルゾウに向ける。

ゴンスケ
チツクさん
さあ、マサル。「あやつり時計」を持ってくるんじや。

プリンさん
チツクさん
月は？月は出てる？

プリンさん
（空を見上げて）出てるけど、半分だけです。

ゴンスケ
チツクさん
半分だけじゃダメなの。私の歌が月に届かないのよ。
どうした、マサル。早くしないと、こいつの命はないぞ。

チツクさん
届くかどうかは、やってみなくちゃわからないですよ。

プリンさん そうね。チックさん、あなたも協力して。

————— M 16 「ムーンライト・マジック」

プリン・チック

お願い月の光よ 私の声を聞いてよ
闇に迷った旅人に 道を教えるその光で
私の悲しみ消して 明日はきつと
いい日が来ると 信じていたいから
ルーナルーナルー

プリンさん

さあ、マサルくんも一緒に言つて。ルーナルーナルー！

プ・チ・マ

ルーナルーナルー！

プリンさん

(小学生たちに) さあ、みんなも。ルーナルーナルー！

プ・チ・マ・小

ルーナルーナルー！

プリンさん

ダメだわ。でも、もう一度。

プリン・チック

お願い月の光よ 私の声を聞いてよ
家をなくした子犬に ほほえみかけるその光で
私の淋しさ消して いつかまた
あの人に会えると 信じていたいから
ルーナルーナルー

ルーナルーナルー

プ・チ・マ・小

ルーナルーナルー！

プリンさん
プ・チ・マ・小
（客席に向かつて）みんなも一緒に手伝って。ルーナルーナルー！
プリンさん
（客席に向かつて）もつともつと大きな声で。ルーナルーナルー！
プ・チ・マ・小
ルーナルーナルー！

突然、真っ暗になる。

チツクさん
ゴンスケ
あっ！ 何も見えない！
プリンさん
誰が電気を消したんじや！
ゴンスケ
何が起きたんですか！
コザル軍団！
早く電気をつけるんじや！

突然、明るくなる。

ゴンスケ

よし、明るくなった。さあ、マサル。「あやつり時計」を持ってくるん
じゃ。早くしないと、こいつの命はないぞ。あれ？

暗くなっている間に、ゴンスケとイズミの立場が逆転している。つまり、イズミが刀を
持ち、ゴンスケの喉に当てている。

チツクさん

命がないのは、おまえの方じゃないか。

ゴンスケ

そんな、いつの間に。

プリンさん

どうする、ゴンスケ。これでもまだ戦うつもり？

ゴンスケ

わかった。ワシの負けじゃ。ヨンスケ、刀を捨てるんじゃ。

ヨンスケが刀を捨てる。ヤルゾウが拾い、カゲロウを助ける。

ヤルゾウ
カゲロウ

プリンどの、かたじけない。
おまえさんのおかげで、命拾いをしたよ。やっぱり、おまえさんも忍者
なんだね？

チツクさん
プリンさん
ヤルゾウ

違うよ。実はこの人は――
ヤルゾウさん、早くゴンスケを逮捕してください。
そうであった、そうであった。(イズミに) さあ、刀を貸すんじゃない。

ヤルゾウがイズミの刀を取る。その時、ゴンスケが走る。マサルに飛びかかり、「あやつり時計」をつかむ。

ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
マサル
ゴンスケ
マサル

時計をよこせ！
ダメだ！ この時計は渡さない！
ワシによこせば、おぬしにも使わせてやるぞ！
僕は使いたくなんかない！
足が速くなりたいんじゃない！
一番になれなくていい。僕はビリでもいいんだ！

その時、「あやつり時計」が二つに割れる。マサルとゴンスケが倒れる。

ゴンスケ
マサル
チツクさん
ゴンスケ

あつ！ 「あやつり時計」が！
チツクさん、ごめんなさい。
いいんだよ、マサルくん。「あやつり時計」が悪いことに使われたら、世界は大混乱になる。そんなことになるくらいなら、壊れてしまった方がいいんだ。
しかし、「あやつり時計」は世界にたった一つしかないんじゃないぞ。おぬしなら、なおすことができるじゃろう。

チツクさん
ゴンスケ
プリンさん
ゴンスケ

僕がなおしたら、また盗むつもりだろう？
ワシはどうしても「あやつり時計」がほしいんじや。
どうしてそんなにほしいのよ。
マサルと同じじや。ワシも足が速くなりたいんじや。

―――
M「世界で一番はやい足」

ゴンスケ・軍団

タタタタタタタタ　タタタタタ
タタタタタタタタ　タタタタタ

ゴンスケ

足が遅いと損ばかり　忍者が遅いと大変じや
敵に追われて逃げる時　ワシだけ捕まり泣き出した

誰にも負けない　速い足があれば

あの日のワシは　泣かずにすんだのじや

ワシが一番ほしいもの　世界で一番はやい足

ゴンスケ・軍団

マサル
ゴンスケ

そうか。ゴンスケも足が遅かったのか。
マサルなら、ワシの気持ちわかるじやろう。足が遅いと、どんなに辛
いか。

わかるよ。でも、僕は「あやつり時計」を使わない。

どうしてじや。

ずるいことをやって一番になるより、正々堂々とやってビリになった方
がいい。その方が、ずっと気持ちがいいもの。

マサル
ゴンスケ
マサル

ゴンスケ
ヤルゾウ

そうか。気持ちはいいか。
ゴンスケ、窃盗容疑で逮捕する。

ヤルゾウがゴンスケに手錠をはめようとする。

チツクさん

待つてください。ゴンスケは何も盗んでない。だから、逮捕する理由は
何もない。

ヤルゾウ

しかし、貴殿の「あやつり時計」を。

チツクさん

「あやつり時計」？ 僕はそんなもの、作ってませんよ。作ってないも
のを盗むなんて、さすがの忍者にもできないでしょう。

ゴンスケ

おぬし、ワシを許してくれるのか？

チツクさん

悪いのは僕なんだ。僕があんな時計を作ったから。

ヤルゾウ

やっぱり作ったのでござるな？

チツクさん

作ってません。

プリンさん

さあ、マサルくん。お家へ帰りましょう。

プリンさん・マサル・チツクさん・小学生たちが歩き出す。

ゴンスケ

マサル。さっきのおぬし、なかなか勇気があったぞ。

マサル

そうかな。

ゴンスケ

忍者はイヌのように、敵をおそれぬ勇気がなければならぬ。おぬしはも
う立派な忍者じゃ。

マサル

僕は忍者にはならない。僕は、僕なんだから。

プリンさん・マサル・チツクさん・小学生たちが去る。
ウ・カゲロウが去る。ゴンスケ・コザル軍団・ヤルゾ

ランナーたちがやってくる。白いシャツと白いパンツと白いハチマキの、白いランナーである。ランナーたちが走る。踊るように走る。速いランナーもいる。遅いランナーもいる。しかし、走る姿はみんな美しい。走り終わって、みんな空を見上げる。そして、みんな走り去る。

反対側から、プリンさん・マサル・チックさん・小学生たちがやってくる。
マサル ただいま。

反対側から、パパ・ママ・ミチコがやってくる。

マサル！ 無事だったのか！
マサル ごめんね、マサル。ママが悪かったわ。
マサル 僕の方こそごめん。みんなに心配をかけちゃって。
マサル 何言ってるの。悪いのは全部ママよ。ママがマサルの心を傷つけたのよ。
マサル でも、黙って家を出たのはいけないかっと思っ。
ママ 口答えするんじゃないやありません。悪いのはママだって言ってるでしょう？

パパ
ミチコ
マサル

まあまあ、あんまり大きな声を出さないで。
マサル、さっきのケーキ、半分残しておいたのよ。食べる？
うん。

ミチコが奥へ入っていく。

プリンさん
パパ
プリンさん

それじゃ、私たちはそろそろ帰ります。
プリンさん。マサルを助けてくれて、本当にありがとうございます。
いいえ。マサルくんは、自分の力で戦ったんです。私は何もしてませんでした。

チックさん
パパ

魔法はちよつと使いましたけどね。
魔法って？

プリンさん
マサル

マサルくん、明日のマラソン大会は大丈夫？
大丈夫だよ。たとえビリになっても、精一杯走る。

プリンさん
ママ

ママはマサルが一番になれなくても、マサルが好きよ。
パパだって好きだ。精一杯走って言ったマサルがね。

プリンさん
チックさん

そうよ、マサルくん。大切なのは、精一杯走ることなのよ。
精一杯走ると、気持ちいいですからね。

プリンさん
マサル

車に乗ったり、自転車に乗ったりするんじゃないくて、自分の足で走るからよ。

マサル

自分の足で？

—————M 19「僕の足」

プリンさん

苦しくなつて立ち止まった

僕の心はとても弱い

けれど地面を踏みしめている

僕の足はとても強い

走れ走れ 僕の足よ

もつと遠くへ走っていこうよ

みんな

プリンさん

ルーナルーナルー！

ミチコがケーキを持ってくる。

ミチコ

マサル！ ケーキが全部あつたよ。さつき私が半分食べたのに。

ママ

それじゃ、みんなで食べましょう。

パ・マ・マ・チツク

たつた一人で走るとは

とても辛い 一人は辛い

けれど走って行かなければ

見つかからない 友だちは

走れ走れ 僕の足よ

もつと遠くへ走っていこうよ

みんな

パパ・ママ・チックさんが去る。

プリンさん

冬の冷たい風に吹かれて

僕の心は震えている

けれど風に向かって走れば

僕の心は熱くなる

プリン・小学生

走れ走れ 僕の足よ

もっと遠くへ走っていこうよ

小学生たちが去る。プリンさんだけが残っている。

トンガリぼうしの魔法つかいたちがやってくる。

—————M 20「トンガリぼうしの魔法つかい」

魔法つかいたち

白い月が昇ったら
窓を開けて 夜空を見上げて

ほら トンガリぼうしが通り過ぎる

悲しい寝顔の女の子には

そっと笑顔の魔法をかける

私は月の魔法つかい

トンガリぼうしの魔法つかい

プリンさん

これで私のお話はおしまい。みなさん、どうでしたか？ 忍者がたくさ
ん出てきたでしょう。中でも、あの猿飛ゴンスケ。忍者のくせに足が遅
いなんて、ビックリしたわね。いくら足が速くなりたからって、泥棒
はいけないわ。大切なのは精一杯走ることに。精一杯走れば、ビリになっ
ても恥ずかしくないのよ。走ることで、自分の力で精一杯やろう。忍者
歌を歌う時だって、勉強する時だって、自分の力で精一杯やろう。忍者

やしきへ行つて、私はそんなことを考えました。それでは皆さん、さようなら。また会える日を楽しみにしています。

魔法つかいたち

青い屋根を飛び越えて

忘れた夢 届けに行こう

さあ トンガリぼうしが舞い降りる

ひとりぼっちの男の子には

楽しいお話きかせてあげる

私は月の魔法つかい

トンガリぼうしの魔法つかい

魔法つかいたちが去る。あたりが次第に明るくなっていく。夜明けの時間だ。それでも、月は白く輝いたままだ。

∧ 幕 ∨